

## 地味なカリスマお母さん

岡山県 就実小学校 四年

高<sup>たか</sup>原<sup>はら</sup>美<sup>み</sup>咲<sup>さき</sup>

「これこれ！これがないとやっつてられん！」

私のお母さんの一日の楽しみは、コップ一ぱいのキャラメルマキアートです。イヤイヤ期終わりかけの妹と、反こう期に入りかけの私のお世話はなかなかつかれるらしく、これが最高のごほう美だと毎日美味しそうに味わいます。私は、お母さんのとなりで、コーヒーマシンの香りをクンクンかきながら一しよにおしゃべりをする事が大好きです。

九州の田舎で育ったお母さんは、運動神がいバツグンで、美人で、英語が得意なカリスマみたいな人です。けれど、家では、はか多弁丸出しの、じょうだんが好きな、地味で面白い人です。私が年を聞くと

「わすれたっちゃんねー。」

ととぼけたり、私がお母さんのおならの音を聞いたことがないと伝えると、

「おならをしない星からやって来たのかもしれない。」

と言つてフッフツと笑つたりします。ある日、そんなお母さんから、ドキッと話す話を聞いた事がありました。

私が七才のころのことです。お友達と少しいやな事があつて落ちこんでいると、そつとだきしめてこう言いました。

「お母さんね、実は四年生の時に一年間いじめにあつたことがあるとよ。」

私はビックリしました。まさか、いつもこんなに明るなお母さんが、私と同じ年くらいの時に一年間、いじめにあつていたな

んで信じられなかったからです。そして、こんな事も教えてくれました。その一年間はとても辛かったけれど、おばあちゃんやおじいちゃんが全力で守ってくれたこと、クラスに一人だけお母さんを助けてくれるお友達がいたこと、そのお友達とは今でも大切なお友達だということ、今はいじめにあつて良かったと思えていること、なぜなら、その経験のおかげで、色々な立場の人の気持ちや、大切な人達のそんざいに気付くことができたから。

大人になつたお母さんは、自分も誰かの助けになれたらと、かんごしさんになりました。病氣とたたかっているかん者さんのお話はとてもき重で、ある若いかん者さん

「夢があるなら、どうか健康な内にちょうせんしてね。」

という言葉を聞いて、もう一つの夢だつた国際線のCAさんになることにしたのだそうです。

今はちよつぱり太つた、地味なお母さん。若いころの自分の写真を見ては、

「いかんいかん、やせんとね！」

と笑いながら、やっぱり今日も甘いキャラメルマキアートを飲んでいきます。

大好きなお母さん、最近反こうしてごめんね。いつも私や妹を笑わせてくれてありがとう。